

令和 5 年度 【 学園研究費助成金 < B > 】 研究成果報告書

学部名 看護学部

フリガナ サハラ ヒロコ
氏名 佐原 弘子

研究期間 令和 5 年度

研究課題名 病棟看護師と ICU 看護師の集中治療後症候群 (Post-Intensive Care Syndrome : PICS) の認識および介入に関する実態調査

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	佐原 弘子	看護学部	教授
協力者 (学内)	濱島 麻衣	看護学部	助手
協力者 (学外)	土屋 裕美 (名古屋女子大学)	看護学部	講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

2010 年に PICS (Post-Intensive Care Syndrome : 以下 PICS) という概念が誕生し (Needham, Davidson & Cohen, et al. 2012)、集中治療室 (Intensive Care: 以下 ICU) 治療後の生活の質をどのように向上していくかが課題となっている。PICS の研究は、ICU における PICS 予防に関連した研究が多いが、PICS は、ICU を退室したのちに顕在化するため、病棟においても PICS の予防、改善の支援は急務である。昨年、東海地方の ICU 施設を対象に病棟看護師の PICS 認知度について調査を行った。本研究では、北陸地方の病棟看護師がどの程度 PICS を認知しており、予防・改善のための支援を行っているかを明らかにしていく。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

PICS は新しい概念であるため、現在の研究のほとんどは ICU 看護師を対象としたものであり、ICU 看護師でさえ、PICS の認知率は 6 割程度と報告されている。また、PICS の認知度に関しては日本集中治療学会に所属している医師・看護師などへの調査となっており、結果にバイアスがかかっていると判断できる。そのため、全国的な認知度の傾向を検証するため、地域に分け実態調査を行う。今後、近畿、関東地方の調査を継続予定である。この実態を調査することで、病棟看護師の認知率を向上させる施策や、ICU・病棟連携の方策について検討が可能となる。また、地域ごとの特色を明確にすることができ、状況に適した施策の提案ができる。ICU 治療により救命率が向上している中で、退院後の社会生活をよりよくするため、重要な研究であると考えられる。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

北陸4県のICUを有する200床以上の36病院のうち、研究承諾を得られた12病院のICU看護師・病棟看護師(精神科病棟看護師を除く)すべてを対象とした。承諾を得られた施設の251名のICU看護師、および約2000名の病棟看護師を対象とし、Google Formsによる無記名自記式アンケート調査を行った。

調査期間は2023年9月～2023年12月31日とし、期限までに回答のあったデータを分析対象とした。分析方法は、実態に関しては、記述統計を用いて分析した。

ICU看護師251名中45名(17.9%)、病棟看護師2,000名中148名(7.4%)より回答があった。ICU看護師の看護師経験年数は 16.7 ± 10.3 年、ICU経験年数は 6.6 ± 4.6 年であった。病棟看護師の看護師経験年数は 14.0 ± 8.9 年であった。ICU看護師の80%はPICSの概念を認識していたが、概念を知っているICU看護師のうちPICS予防の介入を行っている割合は25%にとどまった。病棟看護師においては58.8%の看護師がPICSの概念を認識していたが、認知しているという病棟看護師においてPICS予防の介入を行っている割合は4.8%のみであった。

PICSの認識調査は、2019年の日本集中治療医学会の調査において、学会員看護師の約50%程度の認識であり、江尻ら(2019)の東海1県の調査においても約50%の認識度であったが、本研究ではICU看護師の80.0%がPICSについて認識しており、PICSの認識度は急速に上がっていることが明らかになった。しかしながら、病棟看護師については58.8%であり、病棟看護師の認識が十分ではないことが明らかとなった。また、PICS予防への介入については、ICU看護師においても25%、病棟看護師は4.8%にとどまり、今後、PICSへの予防的介入を高めていくこと、さらにICUから病棟に継続して行えるよう施策が必要なことが明らかとなった。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①集中治療後症候群	②PICS	③	④
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

東海地方での調査に関しては下記の学会にて発表した。

・濱島麻衣、ICU看護師の集中治療後症候群(Post-Intensive Care Syndrome:PICS)の認識および介入に関する実態調査、第25回日本看護医療学会学術集会、2023年

今回の北陸地方の調査内容に関しては、東海地方での結果とともに「日本集中治療医学会雑誌」に投稿予定である。